期待される新品種

早生白肉でジャガイモシストセンチュウ抵抗性の

生食用新品種「北育１号」

ジャガイモシストセンチュウは，ばれいしょ栽培において最も重要な害虫です。発生圃場で「男爵薯」のような抵抗性のない品種を栽培すると，ジャガイモシストセンチュウは著しく増殖して，収量が大きく低下します。近年十勝地方や上川地方で新たな発生が認められ，汚染地帯の拡大が危惧されています。

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種は，線虫密度を植え付け前に比べて80%から90%も減少させることが可能で，殺線虫剤や輪作等の防除方法に比べて極めて効果的です。これまで，生食用のジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種がいくつか育成されてきましたが，生食用の主力である「男爵薯」の替りとなる，早生白肉の品種はありませんでした。

今回育成された「北育１号」は，早生白肉の生食用で初めてジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持つ品種です。また「男爵薯」より中心空洞や打撲黒変が少なく，調理加工特性が優れています。青果用としては，煮崩れしにくく，煮物に最適です。業務用としては，ポテトサラダやチルド製品等に適性があります。以上のことから，ジャガイモシストセンチュウ汚染拡大防止のために「男爵薯」に置き替って普及していくことを期待しています。

ばれいしょ塊茎とその断面　（左：北育１号　右：男爵薯）

表1　「北育１号」の生育収量成績

品種名	枯凋期（月日）	上いも数（個/株）	上いも平均一個重（g）	中以上いも重（kg/10a）	標準比（%）	でん粉価（%）
北育１号	8/28	11.9	85	3,710	108	15.0
男爵薯	8/24	10.1	90	3,416	100	14.7

注：1）全試験カ所平均（1999, 2000, 2002, 2003 年平均）

2）上いもは 20g 以上の，中以上いもは 60g 以上の塊茎

（馬鈴しょ科　池谷　聡）